

ウルグアイ通信

(5)逆カルチャーショックから考える「助け合い」のかたち

上席主任研究員 水野 映子

※2018年1月から2年間、当研究所を休職し、ボランティアとしてウルグアイの観光省にてアクセシブル・ツーリズム（障害の有無や年齢などにかかわらず誰もが楽しめる観光）に関する活動に従事。詳細は初回（<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2018/wt1805b.pdf>）参照。

2年間のボランティアとしての任期を終え、2020年1月に日本に帰ってきました。ウルグアイにいる間は日本とは異なる文化に驚くことばかりでしたが、帰国後は日本の文化に再び触れた際の驚きや戸惑い、俗に言う「逆カルチャーショック」を感じるものがしばしばありました。その体験のいくつかについて述べます。

最初に「逆カルチャーショック」を受けたのは、成田空港から東京への帰り道でした。物理的なバリアフリー化が進んでいる日本でも、重いスーツケースを持って移動するのはなかなか大変です。一人で必死に段差を乗り越えようとしている時、もしウルグアイ人が周りにいたら駆け寄って手伝ってくれるだろうに、という思いがふと脳裏をよぎり、いま自分はウルグアイではなく日本にいることを実感しました。

次は、駅のエレベーターの前に立った時のことです。大勢の乗客がきれいに列を作って並ぶのを見て、最初は「さすが日本！」と感心しました。しかしその後、車いすを使っている人がそこに来て、誰ひとり順番を譲ろうとしない様子を目にし、感心は違和感に変わりました。ウルグアイでは、体の不自由な人や高齢者、妊婦、あるいはそれ以外の人にも列の順番を譲ることが当然のように行われていたからです。そうしたことを思い出しながら、ここでもまた、自分が日本に戻ってきたことを意識させられました。

3番目は、駅の中で自分の進むべき方向を探していた時のことです。以前の「ウルグアイ通信」にも書きましたが*、ウルグアイに比べて日本の案内表示は格段に親切です。そのことに改めて感銘を受けながら案内表示を見て移動したのですが、結果的には行き先を間違えてしまいました。これだけ詳しい情報があっても迷うほど日本の交通網や施設の構造が複雑であることに驚くとともに、うろろうしている間に誰からも声をかけられなかったこと、そして自分が誰かに聞こうとしなかったことにも、ウルグアイにいた時との差を感じました。

これらのような「逆カルチャーショック」を体験したからといって、文化・習慣も国民性も異なるウルグアイ人と全く同様に日本人も行動すべき一例えば、荷物の持ち運びに困っている人や移動に何らかの困難がある人に対して、いつでも声をかけたり手を貸したりすべき、順番を譲るべきと主張するつもりはありません。日本では、健康な人の荷物運びを手伝う必要はないという考えや、障害のある人もそうでない人と

同じように列に並ぶのが「公平」という考えもあるでしょう。また、誰かの手を借りることを好ましく思わない人もいるかもしれません。ただし個人的には、ウルグアイに比べると助け合うことが少ない日本の文化に久しぶりに触れて、若干の寂しさと疑問の念を抱いたのも事実です。

おりしも日本では、今夏の東京オリンピック・パラリンピックを前に、障害のある人やお年寄り、外国人などへの対応方法に関するマニュアルや研修が一層増えているようです。そのこと自体は否定しませんし、一定のマニュアルや手本に則った知識やサポート技術が普及することの意義もあると思っています。実際、障害のある人からは、以前より手助けされるようになったという声を聞いたこともあります。

しかし、マニュアルやルールには基づかない行為、例えば手助けする対象と明記されていない人にも手を貸す、優先マークがなくても誰かを優先するといった行為は、ウルグアイに比べると日本ではあまり見かけません。良くも悪くも「マニュアル通り」に行動する日本人の特性が、ここにも表れているように感じます。障害の有無や年齢などにかかわらず困っていそうな人には手を差し出す、列の並び順通りでなくても順番を譲る、そして自分が困っている際にもためらわず助けを求めたり手を借りたりする一ときにはそんな柔軟さも日本人にはあつて良いのではないのでしょうか。

* * * * *

私は現在、当研究所の研究者として日本で再び働いていますが、2年間のウルグアイ滞在中に見聞きしたこと、帰国して改めて感じたことなどをこれからも情報発信し、自分の経験を少しでも社会に還元できればと考えています。



正面から見た図

妊婦や移動に制約のある人などが優先であることを示すレジ(左)とバスの座席(右)。ウルグアイでは、このような表示がなくても列の順番や座席を譲る光景がしばしば見られた。(ウルグアイにて筆者撮影)

(ライフデザイン研究部 みずの えいこ)

* 「ウルグアイ通信(2)『市民の足』にみるバリアフリー」2018年8月30日
(<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2018/wt1808f.pdf>)